

## 令和元年度 総務省オープンデータ化支援研修 開催レポート

R 元.7.19 島根県地域振興部情報政策課

### 1. 研修会概要

島根県雲南市は、総務省の支援を受け、令和元年7月10日（水）に市役所の職員を対象としたオープンデータ研修会を開催しました。当日は、雲南の職員37名、県内市町村職員5名（1市2町）の参加がありました。



- 雲南市は人口39,032人、県東部に位置し、ヤマタノオロチ伝説で知られる斐伊川をはじめ、神話・伝説ゆかりの名所、史跡・古墳が残されており、山間地ではたたら製鉄等が盛んに行われた歴史豊かな地域です。
- 子ども、若者、大人による3つのチャレンジを連鎖させ、10年後も、20年後も市民みんなで支え合い、いきいきと暮らせる魅力ある持続可能なまちづくりに挑戦しています。
- こうした取組みと相まって、今後は地域課題の解決に向けたオープンデータの活用に取り組もうとしています。



※雲南チャレンジサイト (<http://www.co-unnan.jp/>) 及び雲南市市勢要覧二〇一九より（2019年3月発行）

### 2. 研修会の様子

#### (1) 開会

- 雲南市 佐藤政策企画部長からは「地域との協働を推進する当市は行政データも積極的に共有する」と挨拶いただきました。



↑これからオープンデータに取り組む参加職員にエールを送る佐藤部長

#### (2) 講義

- まず、総務省が作成した動画「ゼロから始めるオープンデータ～地方公共団体の皆様へ～」(<https://www.opendata-training.org/>で公開中)を視聴し、理解を深めました。
- 島根県からは、今年5月に県内自治体の取組率が100%を達成したことと、今後もニーズを踏まえたデータ公開や市町村との連携等、県として積極的に取り組む方針を説明しました。
- (一社)データクレイドルの新免氏からは、入門編として、オープンデータの定義、取組みの意義等について、多くの活用事例を交えながら解説いただきました。
- (株)日立社会情報サービスの滝澤氏からは、利用ルール、データ選定の考え方やデータ形式の理解(ExcelとCSVの違い)等、オープンデータを公開するための基本的な手順について解説がありました。



↑動画はわかりやすくあつという間の4分



↑「情報処理の行きつくところは“データ”」と熱弁を振るう新免氏

### (3) ミニディスカッション

- 「これからどんな情報の公開を目指すのか」をテーマにアイデアを出し合うディスカッションを行いました。初めてオープンデータというものを知った参加者が大半でしたが、活発な議論により盛り上がりを見せました。



- 発表では、「市内の魅力ある写真」、「インスタ映えスポットを一覧化」等、地域の観光・魅力発信に関するアイデアのほか、「子育て情報」、「安全（交通事故、防災）情報」、「禁煙・喫煙場所」、「市内全自治会のルール」といったように市民の生活に密着した内容が目立ち、地域との協働を積極的に取り組む雲南市の姿勢を感じることができました。
- 講師の新免氏からは、「写真はオープンデータとしての認知度が低いですが、それ単体で魅力を発信することができる面白い素材」、「安心・安全、子育てに関わる分野はニーズが高い」と講評いただき、活用し易さを確保するために「データには位置情報（緯度・経度）を付与すると良い」とアドバイスがありました。
- また、「オープンデータはデータ単体に多くの情報を持つため、広報でカバーできない、意外と知られているようで伝わっていない情報を発信することができる」というオープンデータが持つ情報発信のポテンシャルについても言及がありました。

#### 発表の様子



↑ 全自治会ルールをオープン化!  
参加者から唸り声があがる



↑ 災害物資備蓄場所の一覧  
は防災に役立つ



↑ 交通事故の場所をオープン化  
市民の安全向上に役立てる



↑ やっぱ観光!“映える”  
スポットの一覧を公開しては



↑ 建物の CAD データを共有する  
これは職員の願望!?



↑ 社☆ガール?雲南市には多くの  
史跡が。寺社仏閣情報を公開



↑ 愛煙家に朗報!?喫煙所一覧  
を整理してはいかがでしょう

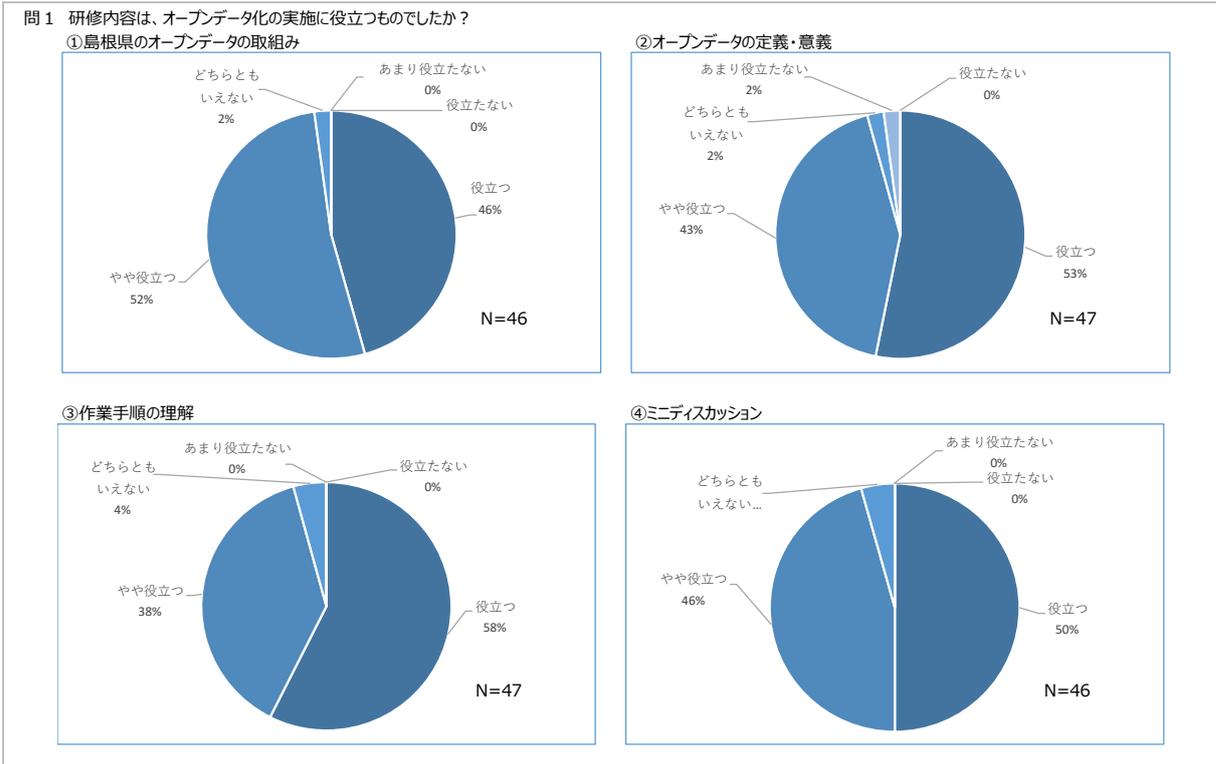


↑ 子育て環境の確保を。子育て  
施設の空き情報、川遊びスポット



↑ 拡散が期待できる写真、  
自治体キャラ、そして神楽!?

### 3. 参加者の声（アンケート）



#### 【研修で印象に残ったこと】

- ・ 思っていたより取組みやすく、ハードルが高くないと感じた
- ・ 仕事量の削減につながる可能性があると思った
- ・ ミニディスカッションを通じてニーズを考えることの重要性を感じた
  - 地域課題解決にどのようなデータが必要か、行政職員が課横断で話し合うことは良い
  - 「何をオープンデータにしたら喜ばれるだろう」と考えれば難しくない
  - 「自分があったらいいな」という視点で情報づくり作りを行う必要がある
- ・ 観光分野でオープンデータ化できるものがたくさんあることが分かった
- ・ 公共交通、空き家情報、写真のオープンデータ化に取り組んでいけると良い

#### 【オープンデータ化の不安・懸念事項】

- ・ どこまでオープンデータ化してよいか判断が難しい
- ・ 雲南市のデータを民間企業が本当に使ってくれるのか
- ・ オープンデータ公開の作業負担が大きい、データの更新作業が大変

#### 【オープンデータ化推進に必要な支援】

- ・ オープンデータ化を判断するためのアドバイス
- ・ フォーマットの定型化
- ・ 民間企業、課題解決に必要なものや庁内他部署のニーズを知りたい
- ・ 情報を持つ原課の理解を得るため、こうした研修を広く行政研修として実施できないか 等

## ※研修資料をオープンデータ化しています

本研修で使用した講義資料は、「総務省オープンデータ 研修ポータル」及び「島根県オープンデータカタログサイト」において、出典が記載されているものを除いて CC-BY ライセンス（出所明記で自由に二次利用可能な規約のこと）で公開されています。

総務省 オープンデータ 研修ポータル	<a href="https://www.opendata-training.org/">https://www.opendata-training.org/</a>
島根県オープンデータカタログサイト	<a href="https://shimane-opendata.jp/">https://shimane-opendata.jp/</a>

## 【参考】研修プログラム

令和元年度 オープンデータ化支援研修・島根県雲南市			
○日 時：2019年7月10日（水） 13:30～16:30			
○場 所：雲南市役所 5階会議室（島根県雲南市木次町里方 521-1）			
<b>プログラム</b>			
開始時間	配分	内容	担当（敬称略）
13:30	5分	挨拶	雲南市 政策企画部長 佐藤 満
13:35	10分	受講者自己紹介 オープンデータ動画の紹介	
13:45	15分	講義① 島根県のオープンデータの取組み	島根県 地域振興部情報政策課 主任主事 広瀬 研一郎
14:00	45分	講義② オープンデータの定義・意義	一般社団法人データクレイドル 代表理事 新免 國夫
14:45	5分	休憩	
14:50	35分	講義③ 作業手順の理解	株式会社日立社会情報サービス 滝澤 郁美
15:25	10分	休憩	
15:35	40分	講義④ ミニディスカッション	株式会社日立社会情報サービス 滝澤 郁美 アドバイザー： 一般社団法人データクレイドル 代表理事 新免 國夫
16:15	5分	確認テスト	株式会社日立製作所
16:20	5分	アンケート	株式会社日立製作所
16:25		終了	
<b>司会（敬称略）</b>			
雲南市 政策企画部 情報政策課長 伊藤 豊			

（出典）総務省オープンデータ研修ポータル